

分福茶がま

動画リンク: <https://youtu.be/cDurPXksrgM>

日本昔ばなし 分福茶がま

今回は日本の昔ばなし「分福茶がま」を学びながら日本語を勉強しましょう。

はじめに。お話を始める前に、昔ばなし・童話・おとぎ話の違いについて少し説明します。

■昔ばなし「昔ばなし」には、昔から語り継がれてきた話という意味があります。語り継がれてきた話なので、作者が誰かはわかりません。

■童話 子供が読むことを前提に作られた物語です。作られた物語なので、当然作者は存在します。

■おとぎ話 子供に語って聞かせるための昔ばなしや童話のことです。「おとぎ話」の中には語り継がれてきた「昔ばなし」も、そして創作である「童話」も含まれます。

「分福茶がま」はとても有名な日本の昔ばなしです。

むかし、上野国の館林に、茂林寺というお寺がありました。このお寺の和尚さんはお茶がとても好きで、いろいろなお茶道具を集めて毎日楽しんでいました。ある日、和尚さんは町へ行った帰りに、一軒の道具屋で、気に入った形の茶がまを見つけました。和尚さんはすぐにそれを買って帰り、自分の部屋に飾って、「どうです、なかなかいい茶がまでしょう。」と、来る人に見せて、自慢していました。ある晩、和尚さんはいつものように居間に茶がまを飾ったまま、そのそばでうとうと居眠りをしていました。

しばらくすると、ぐっすり寝込んでしまいました。和尚さんの部屋がとても静かだったので、小僧たちは、どうしたのかと思って、そっと障子のすき間から中をのぞいてみました。

すると、和尚さんのそばにあった茶がまが、むくむくと動き出しました。「おや。」と思ううちに、茶がまから頭が出て、太いしっぽが生えて、四本の足が出て、やがて部屋の中を歩き出しました。小僧たちはびっくりして、部屋の中へ飛び込んで来て、「やあ、たいへんだ。茶がまが化けた。」「和尚さん、和尚さん。茶がまが歩き出しましたよ。」と、それぞれ大きな声でさわぎました。

その音で和尚さんは目をさまして、「やかましい、何をさわいでいるのだ。」と目をこすりながら言いました。「でも和尚さん、ごらんなさい。ほら、あのとおり茶がまが歩いていますよ。」こうそれぞれに言うので、和尚さんも小僧たちの指さす方を見ました。

茶がまにはもう頭も足もしっぽもありません。もとの茶がまになって、布団の上にすましていました。和尚さんはおこって、「何だ。ばかなことを言うな。」「でもへんだなあ。たしかに歩いていたのに。」

小僧たちはふしぎそうに、茶がまをたたいてみました。茶がまは「かん。」と鳴りました。「それみろ。ただの茶がまだ。くだらないことを言って、せっかいい気持ちで寝ているところを起こしてしまった。」和尚さんにしかられて、小僧たちはしょげて、ぶつぶつ言いながら引っ込んでいきました。

次の日、和尚さんは、「せっかく茶がまを買って来て、ながめてばかりではつまらない。今日は使ってみよう。」と言って、茶がまに水を入れました。すると、小さな茶がまなのに、いきなり手おけーぱいの水をがぶりと飲んでしまいました。和尚さんは少し変だと思いましたが、ほかに変わったこともないので、安心してまた水を入れて、いろりにかけました。

すると、しばらくしてお尻があたたまってくと、茶がまはだしぬけに、「あつい。」と言って、いろりの外へ飛び出しました。おやと思う間にたぬきの頭が出て、四本の足が出て、太いしっぽが生えて、部屋の中を歩き出しました。

和尚さんは、「わあッ。」と言って、思わず飛び上がりました。「たいへん、たいへん。茶がまが化けた。だれか来てくれ。」和尚さんがびっくりして大きな声で呼ぶと、小僧たちは、「そら来た。」というので、鉢巻をして、ほうきやはたきを持って飛び込んで来ました。でももうその時にはもとの茶がまになって、布団の上にすましていました。たたけばまた「かん。かん。」と鳴りました。

和尚さんはまだびっくりした顔をしながら、「いい茶がまを手に入れたと思ったら、とんだものをしょい込んだ。どうしたものだろう。」と考えていますと、門の外で、「くずい、くずい。」という声がしました。「ああ、くず屋が来た。こんな茶がまはくず屋に売ってしまおう。」

和尚さんはさっそくくず屋を呼びました。くず屋は和尚さんの出した茶がまを手にとって、なでたり、たたいたり、底をかえしてみたりしたあとで、「これはけっこうな品物です。」と言って、茶がまを買って、くずかごの中に入れて持って行きました。茶がまを買ったくず屋は、うちへ帰ってもにこにこして、「これは最近にない掘り出しものだ。どうにかして道具好きなお金持ちを見つけて、高く売らなければならない。」こう独り言を言いながら、その晩は大事に茶がまをまくら元に飾って、ぐっすり寝ました。

すると真夜中すぎになって、どこかで、「もしもし、くず屋さん、くず屋さん。」と呼ぶ声がしました。はっとして目をさますと、まくらもとにさっきの茶がまがいつの間にか毛むくじやらな頭と太いしっぽを出して、ちょこんと座っていました。くず屋はびっくりして、飛び起きました。「やあ、たいへん。茶がまが化けたぞ。」「くず屋さん、そんなにおどろかないでください。」「だって おどろかずにはいられないよ。茶がまに 毛が生えて歩き出せば、だれだって おどろくだらう。いったいお前はなんだい。」

「わたしは文福茶がまと言って、ほんとうは たぬきの化けた茶がまです。ある日野原で遊んでいるときに、男たちに追いまわされて、しかたなく茶がまに化けて草の中にくろがっていました。男たちはそれを見つけて、茶がまだ、茶がまだ、いいものが手に入った。これを売ってうまいものを買おうと言いました。それでわたしは古道具屋に売られて、店先にさらされて、さんざん窮屈な目にあいました。」「その上 何も食べさせてくれないので、おなかですいて死にそうになったところを、お寺の和尚さんに買われて行きました。お寺では、やっと手おけーぱいの水をもらって、一口にがぶ飲みしてほっとしました。ところが、いきなりいろりに のせられて、お尻から火あぶりにされたのでおどろきました。もうあんな所はいやです。あなたは人のいい、しんせつな方らしいから、どうかしばらくわたしをうちに置いて養ってください。きっとお礼をしますから。」

「うん、うん、置いてやるぐらいかまわない。でもお礼をするって、どんなことをするつもりだい。」「はい。見せ物でいろいろおもしろい芸をして見せて、あなたにたくさんお金をもうけさせてあげますよ。」「ふん、芸っていったいどんなことをするのだい。」「さし当たり、綱渡りの軽わざに、文福茶がまの楽しい踊りをやりましょう。くず屋なんかやめてしまっって、見せ物師になりなさい。明日からたくさんお金がもうかりますよ。」「こう言われてくず屋はすっかり乗り気になってしまいました。そして茶がまの すずめるとおりくず屋をやめました。

次の日、くず屋は さっそく見せ物の準備を始めました。まず、町のにぎやかな場所に見せ物小屋を作って、文福茶がまの綱渡り楽しい踊りの絵を描いた大きな看板をあげ、太夫元と木戸番と案内役を自分一人で兼ねました。そして木戸口に座って大きな声で、「さあ、さあ、大評判の文福茶がまが見られますよ。毛が生えて、手足が生えて、綱渡りから楽しい踊りまで、何でもやります。評判ですよ、評判ですよ。」と呼びました。通りを歩いていた人たちは、不思議な看板と面白そうな案内にひかれて、ぞろぞろ見せ物小屋へ集まって来て、すぐに満員になってしまいました。

やがて拍子木が鳴って、幕が上がると、文福茶がまのこの楽屋から出て来て、お目見えのあいさつをしました。見るとそれは、大きな茶がまに手足の生えた不思議な生き物でしたから、見物人はみんな「あっ。」と言って目をまるくしました。それだけでも不思議なのに、その茶がまは両手に傘をさして扇を開いて、綱の上に両足をかけました。そして重い体を器用に動かしながら、綱渡りをうまくやってのけましたから、見物人はいよいよ感心して、大きな拍手を送りました。それからは何をしても、文福茶がまが楽しい芸を見せるたびに、見物人は大喜びで、「こんなに面白い見世物は初めて見た。」とみんな言いあって、またぞろぞろ帰っていきました。

それからは文福茶がまの評判は、あちこちに広がって、近所の人はもちろん、遠くからもわざわざ見に来る人で毎日毎晩大入りでしたから、くず屋はあっという間に大金持ちになりました。そのうちにくず屋は、「こうやって文福茶がまのおかげでいつまでもお金をもうけても、きりがいいことだから、ここで休ませてやろう。」と考えました。

そこである日、文福茶がまを呼んで、「お前をこれまでたくさん働かせて、おかげで私は大金持ちになった。」「人間の欲には限りがないと言うけれど、そんなに欲ばるのはよくないから、今日限りお前を見せ物に出すのはやめて、もとのとおり茂林寺に納めることにしよう。「その代わりに今度は和尚さんに頼んで、もう火あぶりになんかしないようにして、大切にお寺の宝物にして、立派な布団にのせて、ゆっくり休ませてあげるがどうだい。」こう言うと、文福茶がまは、「そうですね。私もくたびれましたから、ここで少し休ませてもらいましょうか。」と言いました。

そこでくず屋は文福茶がまに、見せ物でもうけたお金を半分そえて、茂林寺の和尚さんのところへ持って行きました。和尚さんは、「ほい、ほい、それはありがたい。」と言いながら、茶がまとお金を受け取りました。

文福茶がまも、それなりにくたびれて寝込んでしまったのか、それからは別に手足が生えて踊り出すこともなく、このお寺の宝物になって、今日まで伝わっているそうです。

「分福茶がま」は、いかがでしたか？あなたの国の童話や昔ばなしをコメント欄から是非みんなに教えてください。

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただくと大変嬉しいです。それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

